

V. 貿易大学（ハノイ）への教員派遣事業

1. 派遣教員、奈良女子大学研修生

派遣教員	武藤 康弘	研究院人文科学系人文社会学領域 教授
研修生	國岡 伸	人間文化研究科博士前期課程国際文化社会学専攻 1 回生

2. 派遣期間

- 10月31日（木）関空発－ハノイ着
- 11月1日（金）講義準備
- 11月2日（土）～3日（日）講義
- 11月4日（月）採点等
- 11月5日（火）ハノイ発－関空着

3. 事業概要

3-1 シラバス

テーマ 日本の伝統文化と現代文化

- ・ 教育目標
 - 日本の伝統文化と現代文化の分析をとおして、日本の文化の多様性を理解することを目的とする。
- ・ 受講者に対する要求
 - 授業は日本語で行うため、簡単な日本語力が必要。ただし、いちばん求められるのは、日本の多様な文化への「興味」があること。
- ・ 授業計画
 - ① 日本の伝統文化の概要 稲作と信仰
 - ② 日本各地の伝統文化、日本各地の祭礼と伝統芸能
 - ③ 日本の現代文化 J-popの軌跡から初音ミクまで
 - ④ 日本の現代文化 アニメ：セーラームーン
 - ⑤ 日本の現代文化 クールJAPANと JAPANブランド
- ・ 授業形式
 - パワーポイントを使用して、映像も交えながら講義形式で行う。
- ・ 教材と参考書
 - 教材は教師自身が作成した資料を配布する。また、参考図書については授業中に紹介する。

- ・ 成績評価方法

授業の内容に関するレポートを提出。

3-2 講義概要

11月2日 午前

「古都奈良の宗教世界」と題して、パワーポイント使用して海外の学生にはなじみのない日本固有の宗教である神道について解説を行った。また、世界遺産である古都奈良の文化財に関するビデオを上映しながら、なぜ千年以上前の建築物が保存されているのか、その裏にはどのような先人の苦労があったのかを解説した。さらに、春日大社の若宮おん祭の映像を使用して、古都奈良には神事芸能や舞楽等の無形文化財も数多く伝承されていることも紹介した。特に、舞楽には古代の林邑などの東南アジアの芸能が伝承されていることを、映像資料をもとに解説した。最後に、南都楽所の練習に参集し楽器や舞の練習をする子供たちの映像も提示して、無形の文化財を市井の人々が世代を重ねて伝えていくことの大切さを教示した。

11月2日 午後

映像資料をもとに、北海道から沖縄までの日本の伝統的な祭礼を紹介した。日本の様々の地域の季節毎の祭礼について、映像をもとに解説したので、学生達は大いに興味をもったようであった。特に、長野県諏訪大社の御柱祭と、大阪岸和田のだんじり祭が好評であった。工業化が進行し社会が高度にシステム化された現代日本で、このような豪快な祭礼が古くから伝承されていることに、学生たちは驚いていたようであった。

11月3日 午前

はじめに、同行した大学院生の国岡さんが、奈良女子大の概要をパワーポイントで説明した。その後、国岡さんが合気道の演武を披露して学生たちの拍手喝采をあげた。

後半は、国岡さんが書道の授業を担当した。前日、学生達から名前の漢字表記や好きな漢字を聞き取りしており、それをもとに昨晚宿舎のホテルの部屋で、多数のお手本を作成した。それをもとにして、学生達が書道を行うことにしたのであったが、いきなり墨を使用するのは大変なため、まず水で書道の練習ができる特殊な紙を使用して、筆の運びやハライ、トメといった基本を練習した。最後に、教室前方に硯と墨をセットした机を用意して、学生に筆で書いてもらった。受講者が多かったため、仕上がった半紙を置く場所がなくて苦労したが、なんとか書道の授業を完了することができた。

11月3日 午後

午後は日本の現代文化を講義した。はじめに J-pop の歴史についてとりあげ、最後に初

音ミク等のボーカロイドの進化について解説した。音楽映像クリップを多数紹介したが、日本語の聞き取りが難しいので、カラオケ風にキャプション、それもできれば、ローマ字表記があった方が、発音を理解しやすいという意見が学生から聞かれたので、次回の授業の際は、さらに工夫したい。後半は、クールジャパン等のソフトパワーの海外展開と、ブランドの著作権管理について、現地の市場に合わせたブランドデザインの変更の可能性、すなわちオープンイノベーションとライセンス管理について具定例を用いて解説した。最後にセーラームーンを切り口に、日本のアニメと特撮映像について解説をして、講義をしめくくった。